



「健康管理体制」に関する行政の監督指導の強化

東京労働局から、平成24年度に実施された、過労死・過労自殺など過重労働による健康障害を発生させ労災申請が行われた事業場に対する監督指導結果の概要が公表されました。

対象となった93事業場の業種は、「交通運輸業」が最も多く、次いで「ソフトウェア・情報処理業」、「建設業」、「卸・小売業」の順で多くなっています。

また、企業規模としては、「10～49人」が最も多く、次いで「100～299人」、「10人未満」、「300～999人」の順となっています。

今回の結果から、過労死等を発生させた事業場では「労働関係法令違反」の割合が90%と高く、被災労働者に対する健康管理体制の不備のある事業場も高い割合であることがわかりました。

違反の状況としては、不適切な労働時間管理（労働時間の違反、未払残業など）によるものが多くあり、特に「三六協定」の取扱いが厳しく監督指導されているようです。

また、違反のあった事業場のうち半数以上で、1カ月の時間外労働が100時間を超えるか、2カ月～6カ月の時間外労働が平均して月80時間を超えると認められたとのことです。

健康管理体制についての指導を強化

近年では、過重労働による健康障害を防止するためとして、衛生管理体制の不備についても重点的に指導が行われています。

内容は、健康診断の受診、有所見者への対応（医師等からの意見聴取、勤務軽減措置、保健指導）や、時間外・休日労働が多い労働者に対する医師による面接指導です。

これらの中には努力義務のものもありますが、適切に取り組んでいない場合、いざ過労死や精神疾患の発症等が起きた際には、訴訟等において企業は不利な立場に置かれることとなります。

その他、社員が過重労働により亡くなってしまったり精神疾患等で業務に就けなくなったりすれば、その影響は社員の家族や他の社員に多大な負担を強いることとなります。ひいては企業の社会的評価が低下するなど、経営自体にマイナスとなります。

また、いわゆる「ブラック企業」に対する集中的な指導監督も進められていますので、今後も行政による指導監督は強化されていくことと思われます。この機会に、健康的に働くことができ、会社経営にもプラスとなる労働時間管理について検討してみたいはいかがでしょうか。



最近の「会社帰りの飲み会」事情



最近、コミュニケーションの苦手な若手社員が増えたと言われています。しかし、昔から「飲みニケーション」と言われるように、飲み会は懇親を深める重要な役割を持っているのも事実です。

株式会社インテージが今年8月に実施した「仕事帰りの外飲み事情 2013」(ビジネスパーソン意識調査)の結果が発表されましたが、これによれば、最近3カ月で仕事帰りに飲みに行った人は、全体の約7割だったそうです。20代の男性が78.0%で最も多く、飲みに行っていないと回答したのは50代の女性が41.0%で最も多く、次いで40代の男性が38.0%となりました。

仕事帰りの飲酒の相手で最も多かったのは、「職場の同僚(同性、異性問わず)」が55.9%で、すべての性別・年代において共通でした。性別・年代別では、20~30代の男性は「職場の上司」、50代の男性では「職場の同僚(同性のみ)」と職場関係の割合が高いのに対し、女性は「会社、職場以外の友人・知人(同性のみ)」の割合が男性よりも高かったようです。

飲みに行く目的・理由で最も多かったのは「コミュニケーションをとりたかったから」(50.6%)で、「付き合いで、誘われたから」(44.9%)、「会話、話を楽しみたかったから」(36.8%)と続きました。

性別・年代別でみると、20代男性が「ストレスを解消したかったから」が39.7%で最多となり、20代女性では「コミュニケーションをとりたかったから」が63.5%で最多でした。

20代~40代の女性は、「会話、話を楽しみたかったから」が多く、飲酒の相手と同様に、男性と意識に差があるようです。

1回の飲み代の平均予算は「3000円程度」(38.2%)が最も多く、次いで「4000円程度」(27.7%)、「5000円程度」(17.8%)となっています。

性別・年代別でみると、最も飲み代の予算が高かったのは50代の男性でした。飲み代の平均予算については、過去の調査と比較してもあまり変化は見られませんでした。

編集後記

すっかり秋めいてきました。北海道では初霜も観測されたりと、季節は確実に移り変わっています。さて、先月予告したとおり、仙台へ行ってきました。関東では、原発の話題は多いですが、それ以外の震災の話題はちょっと少なくなっていると感じます。仙台を訪れた日は、ちょうど台風とぶつかってしまい、思ったようには行動できなかったのですが、それでも沿岸部では「ガレキはきれいに片付いたけど、そこから先が進んでない」復興の状況を見てきました。台風直撃コースだったにもかかわらず、私以外にも被災地を見に来ている方がちらほらいて、まだまだ気にかけている人はたくさんいるということもわかりました。ちょうど今は楽天の優勝で東北が盛り上がっていると思いますが、本当に東北が元気になるまで、まだまだ支援が必要だと感じました。

